

金山と前後

名古屋の金山南ビル 11 階、名古屋都市センター「まちづくり広場」から南を眺めると、近くに大きな木が見える。

前から気になっていたのので、その付近まで歩いて行って見た。大きな木は「金山神社」の御神木のイチョウだった。

境内の社記によると、ここは熱田神宮と関わりがある「尾張鍛冶の発祥地」。金物商の信仰により社殿が造営されたという。金山という地名も、こうした歴史に由来するものだろうか。地名に関心があり、金山の由来を知ることができ嬉しかった。

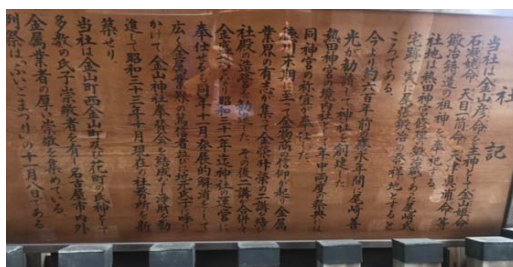


金山から名鉄で東に向かうと、「前後」という名の駅がある。この地名も昔から関心があり、すこし調べてみた。

『角川日本地名辞典』によると

— 古くは「ぜんごう」とも呼ばれた。

境川の支流、皆瀬川水源付近の丘陵地に位置する。地名の由来は、桶狭間の戦の



時に兵の首が前後いたる所にころがっていたためといわれるが、間米村の前の郷にあたるからと思われる。

『豊明市史』本文編、1993 年からも、前後をたどっていこう— 南東に流れる皆瀬川を境にして明治 22 年までは知多郡に接していた地域である。一帯は洪積台地からなり、大部分が畑地で、水田は集落の西に流れる大代川筋の沖積地を利用し、西池や大狭間池などの溜池に灌漑用水を依存してきた。

集落は、間米村の出郷で、旧東海道沿いに五軒屋新田として形成されたのがそのはじまりである。街道を往来する人々を相手に商売などをして人家も増え、近世には市が開かれ、近郷の農産物が取引きされた。農産物のなかから特産化したものにたばこがあり、前後煙草の名で知られるようになった。

第 2 次世界大戦後は、豊明地域の表玄関としてにぎわいをみせ、背後の台地・丘陵も宅地開発されるようになり、高度経済成長期直前の昭和 34 年に仙人塚住宅団地が完成し、従来の丘陵地域は変貌した。その 11 年後の同 45 年には、1.6 畝が開発されて 110 戸からなる前後団地が完成した。……

地名から、その地の歴史と文化などを知ることができる。地名探索を続けていこう。

(2017 年 12 月 8 日)